

自由に発想し、果敢に挑戦する。

羽黒高校の歴史と現在 そして未来



学校法人 羽黒学園

羽黒高等学校 建学の精神

産学一體

産業界と学校が連携し、「社会の中を“生きぬく力”をもつ人」を育てる



すべてはここからはじまります。

創設者、秋元正雄先生

どのような人物だったか、秋元先生の手記『天辺の月』の内容を要約し紹介します。

※この手記『天辺の月』は本校入学後、全員に冊子が配られ、「建学の精神」という授業が行われる中で説明されます。

秋元先生は、明治44年山形県羽黒町に生まれ、家族9人とても裕福な暮らしを送っていました。しかし、6歳の時に父親が事業に失敗し、一転して貧乏との戦いになりました。

大正15年に高等小学校を卒業すると東京の三国商店で働きながら、夜間の学校に通います。昼は炎天下の中、重い鋼材を積んだりヤカーを引き、夜間は勉強に勤しみ、明治大学法学部を卒業しました。秋元先生は何事にも誠意をもって一生懸命に取り組み、どんな困難にも負けずに、社会人として成長していきます。そして、昭和9年、先輩の起業した佐藤ハガネ商店で日本一のハガネ屋を目指すことになります。

戦時中の不自由な時代にも熱意と工夫で業績を伸ばしました。佐藤ハガネ商店は後に佐藤商事となり、秋元先生は佐藤商事の社長に就任します。そして、多くの困難もそれまでに培った人脈と信用で乗り切り、会社は東証一部上場を果たすまでに成長します。

秋元先生が羽黒学園を創立したのは昭和37年です。生まれ育った羽黒町に限りない愛情を注いできた先生にとって、戦後生まれの多くの中学生が中学浪人となる問題を見過ごせなかったからです。そして、当時としては最新の設備を誇る羽黒工業高校を開校しました。そんな秋元先生は羽黒学園第1回卒業生に次のような言葉を贈ります。

第一回卒業生に贈ることは
成功には何のトリックもない。
それは自分に与えられた仕事に
誠意をもって全力をつくすことだ。
理事長 秋元正雄
昭和四十一年三月五日

秋元先生の人生に学ぶ「生きぬく力」とは？

秋元先生は、自身が置かれた環境に左右されることなく、目標や目的を明確にし、まずは目の前の課題に真摯に取り組むことから自らの人生を切り拓きました。そして、厳しい時代を生きぬく中で自身の経験から磨かれたのが「時代の流れを先読みし、行動を起こす力」でした。羽黒高校の主体的な学びを重視する校風の根源はここにあります。

秋元先生の時代を先取りする大胆なアイデアとチャレンジ精神は現在の羽黒高校の教育活動にも受け継がれています。

これらをもとに、羽黒高校では以下のような人材の育成を目標としています。

質実剛健で知識・技能と情操の調和した人
誠実勤勉で自己の能力を発揮する人
報恩感謝の念を持ち、社会を明るくする人

自由に発想し、果敢に挑戦する。

羽黒高校の歴史と現在 そして未来

羽黒高校の歴史と先見性



普通科設置 スクールバス運行開始

高度経済成長により昭和40年代に大学進学者は急増。これに伴い日本経済も工業型から加工・サービス業を中心とした安定型経済成長へと移行していく。そこで、時代の変化に合わせ普通科を設置。ものづくりとともに人づくりへの転換を図り、大学進学にも力を入れた。



羽黒高校に校名変更 総合体育館完成

平成という元号の節目に、羽黒工業高校から羽黒高校へと校名変更。それに伴い、普通科と工業科を柱とした全国でも類を見ない総合高校として生まれ変わった。また、記念事業として総合体育館を竣工。1周約200mの屋内走路や屋内野球練習場を完備するなど、その後の羽黒高校運動部活動隆盛の礎を築いた。

創設者秋元正雄理事長逝去

7つの習慣Jのプログラムを導入



世界的なベストセラーである「7つの習慣」を中高生向けにアレンジした「7つの習慣J®」のライセンスを取得（山形県では羽黒高校のみ）し、成功するための習慣を学ぶ成長促進型授業プログラムを導入。羽黒高校では1年生全クラスで「7つの習慣J®」の授業を実施し、夢や目標を持つことの大切さはもちろん、それを実現するために必要な考え方や行動の仕方について学んでいく。



新校舎完成

新校舎建設の資材として秋元先生が第1回卒業生とともに植樹した樹木が活用されている。現在は毎年3年生が新たに学校林に植林を実施し、50年後に向けSDGsを実践している。秋元先生の見先の明により、木を基調としたぬくもり豊かな新校舎が完成した。

KOSHIMIZU©

昭和38年

昭和42年

昭和61年

平成元年

平成2年

平成8年

平成15年

平成22年

平成29年

令和4年

羽黒工業高校 (機械科・自動車科)開校

戦後の経済復興により日本は高度経済成長を遂げ、工業発展とモータリゼーション（車社会）が急速に進み、全国各地で高速道路が整備された。このような時代背景のもと、羽黒工業高校では即戦力となる中堅技術者の育成を目標として機械科3クラスと自動車科1クラスで開校した。



電子機械科設置

日本の経済成長はさらに加速し、高度情報化社会とコンピュータ社会への時代の変化に対応する人材を育成すべく、電子機械科を設置。程なくMicrosoft Windowsが発売され、高度情報化は急速に進んでいくこととなる。また、より総合的な学びへとシフトした現在の総合情報学科（平成10年～）の前身となった。

国際コース設置

日本人の海外留学はまだまだ一般的ではなかったこの時代、羽黒高校では来るべきグローバル社会を見据え、全国に先立って国際コースを設置。世界各国から多くの外国人留学生を招くとともに、現在まで延べ270人もの羽黒高校生が留学生として世界へ羽ばたいている。



秋元正雄記念館完成

秋元正雄先生の功績を称え、秋元正雄記念館（通称進学棟）を竣工。全館冷暖房完備に加え、個別学習室の設置や代ゼミサテラインシステムにより予備校の授業をライブで受講できるなど先進的な学習環境を整えた。竣工当初は進学に特化した拠点として、現在は3年生の進路全般の拠点となっている。

硬式野球部 甲子園初出場

この年硬式野球部が悲願の夏の甲子園大会初出場を果たす。平成17年の春の選抜甲子園大会では羽黒旋風を巻き起こしベスト4入り、全国の強豪の仲間入りを果たした。



プロフェッショナルラボスタート

「プロフェッショナルラボ」では社会（産業界）との関わりを通し、ビジネスの仕組みをより実践的に学ぶことにより、将来地域社会に貢献する人材（プロフェッショナル）育成を目標としている。工業教育の延長として、これまでにない、より主体的かつ探究的な学びの場として期待されている。

このように、羽黒高校は時代を読み、創立当初より先を見据えた教育活動を行ってきました。そして、これからも時代の変化に合わせ、時代を先取りした教育に取り組んでいきます。

「やりたいこと」を続けるために、「やりたいこと」を見つけるために。

羽黒高校が目指すのは、生徒の「やりたいこと」が実現できる学校です。

ここには、チャンスがある。チャレンジする、価値がある。



学校法人 羽黒学園

羽黒高等学校